

2022年2月発行



CWS JAPAN NEWSLETTER NO. 65

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、
ご理解をいただき、ありがとうございます

アフガニスタン・ 緊急越冬支援を開始 しました

2021年8月15日には首都カブールがタリバンに包囲され、ガニ大統領が国外退避し事実上崩壊したアフガニスタン・イスラム共和国政府は、紛争の継続、自然災害、貧困の拡大により、過去最悪かつ複雑な人道危機の中におり、これにより100万人以上の人々が新たに長期にわたる避難生活を強いられています。

本格化した冬の時期、これらの国内避難民の生活環境はより過酷になり食糧危機の深刻化など、生命を脅かす危険性が高まっています。対象地域のラグマン県では、Integrated Food Security Phase Classification

(IPC)によると、命と生活を守るために緊急な行動が必要とされる極めて深刻な状況を示すフェーズ4（緊急事態）に分類されています。

以上の状況に対し、CWS Japanは現地のパートナー団体と連携し、ジャパン・プラットフォーム（JPF）の助成を受け、緊急支援を開始しています。本事業では、現金を配布することで、人道危機の影響を受ける人々による栄養価の高い食料へのアクセスを向上し、厳しい天候から身を守るための物資を得て、いのちを守ることを目指しています。

OUR SNS IS ACTIVE!

FACEBOOK
TWITTER

INSTAGRAMでも
情報発信しています！

最後のページを
ご覧ください



写真

— 昨年のアフガニスタン中央山岳部の冬の様子

今後、SNSやニュースレターでも活動の様子を報告してまいりますので、どうぞ温かいご支援の程よろしく願いたします。

(文：プログラム・オフィサー 西澤紫乃)

REGIONAL HUMANITARIAN PARTNERSHIP WEEKを 開催しました

1月31日から2月4日の5日間、Regional Humanitarian Partnership Week (RHPW) が開催されました。これは私も企画委員を務め、5年前から毎年開催されているアジア地域で行っているイベントで、NGOネットワークや国連機関の共催により実現しています。過去2年間はコロナ禍という事もあり、オンライン開催になっていますが、昨年は提言レポートも出しました。今年は340名の登録を頂き、5つのトピックを5日間に渡って開催しましたので、それぞれのセッションの議論から、我々のような支援に携わる関係者に求められている変化ポイントをご紹介出来ればと思います。

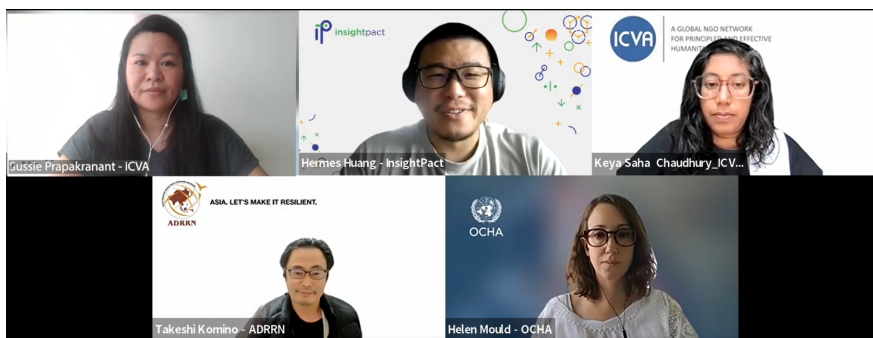
1つ目のトピックは包摂性・ローカライゼーションの視点です。ここで強調されたのは、コミュニティに代表される、人道支援を仕事としていない人々（「Non-Humanitarian」と言ったりしますが、本当は

「True Humanitarian」というべきかもしれませんが）の重要性・役割を再認識する事です。外部からの物資や活動のインプットベースではなく、コミュニティのソーシャルキャピタル（地域の団体、伝統、慣習等）を土台にした支援を行う事も重要視されています。そして、その実現の為に、柔軟性・迅速性・多様なパートナーシップを実現する事も重要です。

2つ目のトピックは気候変動・レジリエンス・人道支援をリンクさせるというものです。ここでは、リスクの連鎖に対する理解の深化が指摘されています。一つ一つのリスクだけでなく、それらがどう影響し合っているのか理解する事です。また、コミュニティ主体のリスク軽減やサイエンスやデータの活用的重要性も指摘されています。

3つ目のトピックは資金調達に向けた関係性強化です。これに関しては平時からのドナー・実施機関との繋がり強化の取り組みを実践する事や、Islamic Financingのザカートのような信仰に関連した資金調達等、地域の募金活動の仕組みや課題への理解を深める事、効果的に最前線へリソースを繋げる仕組み（Due Diligence含む）を実現する事等が強調されました。

4つ目は人道保護の実態・示唆に関してです。ここでのハイライトは、地域の市民社会や難民自身の役割を再認識し、課題解決に向けた対等なパートナーシップを組む事、柔軟でありながら一定の管理が可能な資金供与メカニズムを構築する事、難を逃れた人々が直面する「違法性」に対するアドボカシーを積極的に行う事等です。日本で起きている事も関連性がありますね。



写真

RHPW企画委員会メンバー

最後のトピックは、「リスク」を更に理解するという事です。NGOと学术界のように、「共同調査」を通じたセクターを超えた協力体制の構築を積極的に行う事、何故こういう被災をするのか・したのかという災害シナリオ分析を積極的に行い、それらに対する準備計画、影響予測、早期・予測的行動と連動させる事、将来のリスクを予測するためデータや技術をより積極的に活用し、その情報をコミュニティと共有する事等が強調されました。

コロナ禍の渡航規制などによって、今求められている変化に関する議論が一段と進んだ気がします。それを議論だけでなく行動に移していけるよう、邁進して参ります。

(文：事務局長 小美野 剛)

HAPIC2022に登壇しました

国際協力NGOセンター(JANIC)が主催する

「HAPIC」は、NGOや国際機関、政府機関、学術・研究機関、企業、財団などが1年に1度集まり、国際協力や社会課題、その解決（ソリューション）について、議論を深め経験を共有する機会となっています。今年は、コロナ禍の影響もありオンラインとなりましたが、2月13日(日)～2月15日(火)まで開催され、今年も多く参加者が集いました。

CWS Japanは3つの分科会で登壇しました。職員の小美野剛は「Withコロナで変化する国際協力～あなたの変化が支援を加速する!」と「複雑化する国際社会と人道支援の未来～アフガン人道危機から～」という2つの分科会に登壇して、それぞれで国際協力やNGOの未来像、および困窮し複雑化するアフガニスタンの課題について議論を深めました。また、職員の五十嵐豪は「支援現場の性暴力・被害を防ぐ～“組織の責任”最前線～」に登壇し、去年から続いて「性的搾取・暴力・ハラスメントからの保護(PSEAH)」をテーマに、インドやミャンマーで行われた実践的取り組み事例調査結果を発表しました。

"支援を実施する側は、説明責任が求められ、力の差がある支援の受け手に対して常に配慮することが求められます。"

PSEAHは、国際協力や人道支援の分野で最も深刻な課題の一つとして注目されています。支援者が支援の受け手（被災者や難民など）に対して、支援と引き換えに性的関係を迫るなど、決して許されない行為が報告されています。

しかし、これを個人の責任だけに留めていては問題の根本的解決になりません。支援現場における支援者とその受け手の「力の差」は構造的なものであり、避けることができません。だからこそ、支援を実施する側は、説明責任が求められ、力の差がある支援の受け手に対して常に配慮することが求められます。こうした責任は、支援者個人だけでなく、団体および支援に関わる業界全体の責任として、厳しく取り組む必要があります。

CWS Japanは、こうした取り組みを自らの団体内で推し進めていくだけではなく、パートナー団体や支援に関わる全ての多くの組織・団体に広がるように、啓発や組織強化支援にも積極的に取り組んでまいります。その背景には、組織の垣根を越えて、CWS Japanが支援する人びとや地域だけでなく、全ての人びとが取り残されることなく、人間としての尊厳が尊重される支援を受けられるべきだという考えがあります。

こうしたCWS Japanの取り組みがより多くの人に届けられるように、引き続き温かい応援をよろしく願いいたします。

(文：プログラム・マネージャー 五十嵐豪)

新宿区における外国人相談会の開催報告

2022年2月11日（金・祝）に外国人集住エリアである大久保地区に隣接する日本キリスト教会柏木教会にて新宿区に在住、在勤、在学する外国人を対象に無料の生活物資配布と相談会を開催しました。

今回の相談会開催の目的は、

- （１）首都直下型地震の緊急支援に備え、支援が届きにくいとされる外国人のなかでも、同地域内で生活困窮する外国人を把握し、平時から必要な支援につなげること、
- （２）外国人の孤立化を防ぐため、支援交流を通してコミュニティにつないでいくこと、そして
- （３）同地域における私達のような支援者の存在と支援拠点の存在を認知してもらうことです。

当日は弁護士や女性問題等の専門家にご協力頂き、様々なお困りごとに対応すると同時に、ハラル食品やフルーツ等を含む食品に加え、希望者には生理用品、衣料品等も提供しました。

"相談内容の中には公的支援ではカバーできないようなケースや公的支援でカバーできるけれども自力ではその支援までたどり着けないケースも"

開催前日は都内23区で大雪警報が出ており、水分の多い積雪が長い時間続いたため、会場へのアクセスが制限されることが心配されました。会場は常時換気のために寒い環境でしたが、当日はお天気で特に目立った影響もなく終えることができました。

午前11:00から午後3:00までの受付時間の間、合計17名（内5名が女性）の来場者が相談と食品受取のために来場しました。アフリカ系外国人が9名、アジア系外国人が8名という内訳で、前者が多様な国からであったのに対し、後者はミャンマーからの方々でした。

相談内容は、仮放免であるために就労できず生活が苦しいことと、健康に関する悩みや、定期的な食料支援のニーズ等に関するものでした。その場で解決できず、外部の支援が必要される場合においては、CWS Japanが中心となり、関係支援団体や新宿区行政に繋いだり、問い合わせたりなどし、対応していきます。相談内容の中には公的支援ではカバーできないようなケースや公的支援でカバーできるけれども自力ではその支援までたどり着けないケースもあり、私たちのような民間支援団体や市民社会組織による支援や彼らとの繋がり的重要性を改めて認識しました。

また、当日は新宿区内の災害時に身を守るための施設と平時から生活困窮者支援を行っている団体情報を記載した「新宿区サバイバル情報」を配布しました。今後もこのような情報の発信と助けを必要とする外国人とのコミュニケーションの場として、facebook内グループの「[新宿区OTAGAISAMAプロジェクト](#)」を活用したいと考えています。



写真

当日の外国人相談会での受付の様子

"今後もCWS Japanは災害時に支援の届きにくい外国人を把握し、誰一人取り残されないような地域の創造のため、このような活動を継続してまいりたいと思います。"

開催後の関係者からのフィードバックでは、「広報する際にチラシ等に女性だけのスペースが確保されていることを明記した方がよかった。」「健康/医療相談も入れた方がいい。」「開催日を祝日や休日に設定する場合、1,2カ月前に告知をした方がいい。」等のご意見を頂くことができました。

今回はCWS Japan・ACTジャパン・フォーラムが中心団体となり、難民・移住労働者問題キリスト教連絡会（難キ連）のとの共催のもと、たくさんの方々にご指導やご協力を頂きながら、開催にこぎつけることが出来ました。初回ということもあり不慣れなことが多かったのにも拘わらず、無事に当日を終えることが出来たのもその皆様のおかげです。



写真
外国人相談会当日の
CWS Japan職員の様子

今後もCWS Japanは災害時に支援の届きにくい外国人を把握し、誰一人取り残されないような地域の創造のため、このような外国人相談会やアウトリーチ活動を継続してまいりたいと思います。皆様の温かいご支援とご協力を頂けますと大変幸いです。

※この活動はトヨタ財団の2020年度国内助成プログラムしらべる助成の採択事業の一環として実施しています。

(文：プログラム・オフィサー 西澤紫乃)

インターン紹介

皆さんはじめまして、館農知里（たてのちさと）と申します。2022年2月よりCWS Japanでインターンをしています。現在は、早稲田大学政治経済学部（政治学科）2年生として、国際関係論や国際機構論を中心に「国際的な支援の枠組み構築」について日々学習しています。



写真

インターン館農知里さん

私は、高校2年生の夏休みに参加したインドネシアでの教育支援ボランティアをきっかけに国際協力の道を志すようになりました。

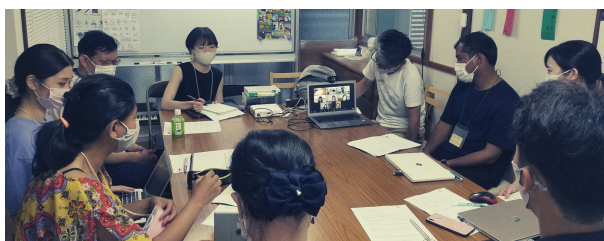
当時、不衛生な学習環境や教育物資の不足といった現地の実情を目の当たりにし、日本とのギャップの中で危機感を抱きました。帰国後、身近にできる支援は何かと考え、発展途上国への文房具寄付活動・募金活動を校内で主催し仲間とともに実施しました。こうした一連の活動を通じて、国際協力の意義を改めて強く実感するようになりました。またそれと同時に、現地の人々全員が自分たちの力で十分な暮らしを維持していけるような「包括的かつ持続可能な支援」というものに自分自身が携わっていきたいと願うようになりました。

CWS Japanは、主に災害支援や防災支援を通じて、国内外で多種多様な社会貢献活動を実施しています。私は、「誰ひとり取り残さない支援」や「地域コミュニティを尊重する支援」を目指すCWS Japanの姿勢に強く共鳴しました。現在は、インターン生として若者を対象とした活動のリサーチ・企画、SNSの定期更新をメインに活動させていただいています。今の自分にできることは限られていますが、「今の自分だからこそできること」を突き詰めて、CWS Japanの目指す「災害時に支援の手が届かず取り残される人々のいない社会の実現」の一端を担えればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(文：インターン 館農知里)

過去のニュースレターやインタビュー記事は下記よりアクセス頂けます。

過去のニュースレターは[こちら](#)



インタビュー記事は[こちら](#)



上島 安裕 様 | 一般社団法人ピースサポート...
© 7月 07, 2021 ■ パートナーの声



堀内 突 様 | 特定非営利活動法人 国際協力...
© 7月 07, 2021 ■ パートナーの声



眞弓 孝之 様 | 国土防災技術株式会社事業...
© 6月 06, 2021 ■ パートナーの声



中村 清美 様 | 国土防災技術株式会社国際...
© 6月 06, 2021 ■ パートナーの声

ご高覧頂き有難うございます。次回のニュースレターは3月末の発行を予定しています。

特定非営利活動法人CWSJapan
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館25号室

メールアドレス：
public@cwsjapan.jp
電話：
03-6457-6840



[CWSJapan](#)



[@Japan_CWS](#)



[cws_japan](#)